

# 平成30年度 施策評価シート

基本目標	V	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	510	コミュニティの輪を広げ、協働によるまちをつくる
施策	513	地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる
施策の目標	すべての区民が、異なる文化や生活習慣、価値観等を認めあい、ともに地域の課題解決にも積極的に取り組むなど、外国人にとっても暮らしやすいまちになっています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「通訳・翻訳ボランティア登録者数（2年に一度更新あり。平成29年度更新）」									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	50	50	60	70	80	80	90	90	100	100
実績	67									
指標名										
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標										
実績										

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
平成27年5月に外国人住民数が1万人を超え、平成29年6月現在も増加傾向にあり、区民の約4%が外国人住民状況です。 今後も外国人支援のニーズが一層高まると推測され、通訳翻訳ボランティア・日本語ボランティアが必要不可欠になります。	H28	808
	H29	770
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	事業対象者(外国人住民)に対して、十分に訴求できていない側面があり、今後広報等の工夫が必要である。

## 4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
		(1) 優先的に資源投入を図る。
		(2) 現状維持とする。
○		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】		
事業対象者(外国人住民)の増加に伴い、事業内容の充実を図る必要があるが、より効率的な実施のため、工夫する必要がある。		
【今後の具体的な方針】		
外国人住民に向けたサービスは、全庁をあげての課題であり、文化芸術振興課のみで対応できるものではない。多文化共生施策として、課が取り組むべき事業については、事業内容を見直し、拡充を図っていく。		

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	国際化推進事業	770	1,776	2,546	外国人にとって暮らしやすい社会を実現するため、在住外国人の生活をサポートするための各種事業を行う。		改善・見直し 平成29年度
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

# 平成30年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	513	地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	<b>国際化推進費</b>							
<b>事業概要</b>	墨田区国際化交流推進検討委員会答申（平成4年2月）及び多文化共生社会の推進に沿った施策を展開する。						<b>主管課・係（担当）</b>	
							文化芸術振興課文化芸術・国際担当 5608-6212	
<b>施策への関連性</b>	外国人にとって暮らしやすい社会を実現するため、在住外国人の生活をサポートするための各種事業を行う。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	外国人住民が増えている（12,291人（平成30年5月）／前年同月比 563人増）中、在住外国人の日本語ボランティア教室等へのニーズは高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	住民サービスの一環として、区が当然に行うべき事業である。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標（活動指標）</b>	<b>指標</b>	<b>外国人住民数</b>				<b>単位</b>	<b>人</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		15,000	37	目標 11,500	11850	12200	12550	
				実績 11,530	12,056			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標 12950	13300	13700	14150	14550	15000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	外国人にとって暮らしやすい社会が実現すれば、結果として外国人住民数の増につながると考えられるため、外国人住民数を活動指標とした。（年3%増見込）							
	<b>目的に対する指標（成果指標）</b>	<b>指標</b>					<b>単位</b>	
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
			目標					
			実績					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標						
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
<b>財政面〔決算額〕（単位：千円）</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	808	770						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 経費は横ばいである。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
外国人住民数は年々増加しており、彼らが安心して生活できるよう、支援が一層必要となるため。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由					
事業の対象者に対して、十分に訴求できていない側面があり、今後広報等の工夫が必要である。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
		5	3	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
対象者の増加に伴い、事業内容の充実を図る必要があるが、より効率的な実施のため、工夫する必要がある。					
中間・最終年度の講評	多文化共生の実現は、外国人住民が増える中、喫緊の課題である。また、外国人住民が人口の4.5%を占めており、住民サービスの一環としての対応も求められている。				
今後の方向性	外国人住民に向けたサービスは、全庁をあげての課題であり、文化芸術振興課のみで対応できるものではない。多文化共生施策として、課が取り組むべき事業については、事業内容を見直し、拡充を図っていく。				